

## **日本ガス協会 内田会長 会見発言要旨**

### **1. はじめに**

本日は、①第7次エネルギー基本計画策定について、②天然ガス、e-メタンに係る動向、③大阪・関西万博におけるガスパビリオンの準備状況、の3点についてご説明する。

### **2. 第7次エネルギー基本計画策定について**

第7次エネルギー基本計画の策定においては、日本のエネルギー政策の大局を踏まえ「S+3E」をバランスよく実現することが不可欠だと考える。

また、経済性、供給安定性、低炭素化への貢献など、天然ガスは熱・電力両分野でバランスの取れたエネルギーといえる。我が国の産業・社会の発展とカーボンニュートラルの両立に向け、天然ガスを最大限活用し低炭素化を進めたいうえで、シームレスにe-メタンに移行するシナリオは、全体最適を導く有力な現実解になり得ると考える。

我々都市ガス業界は、熱・電力両分野における天然ガスへの燃料転換や徹底した省エネ、それを支えるためのLNGの長期契約の柔軟性確保とトレーディング拡大、e-メタンのコストダウンと生産・利用の拡大に取り組んでいく。政府においては、天然ガスをエネルギーの安定供給とカーボンニュートラル実現のための最有力な手段として位置づけたうえで、天然ガスへの燃料転換や省エネに貢献するガスシステムの導入支援、LNGの長期安定的確保に向けた資源外交や調達環境の整備、シームレスなカーボンニュートラル化を実現するe-メタンに関する技術開発や制度整備についても引き続きご支援をお願いしたい。

加えて、需要の不確実性が高いと供給量確保が困難になるため、供給量確保のためには、需要見通しの確実性を高める政策支援も重要だと認識している。例えば、現在、排出量取引制度の議論が進んでいるが、エネルギー政策の原則である「S+3E」と整合性のある政策推進をお願いしたい。

### 3. 天然ガス、e-メタンに係る動向

天然ガス、LNG を巡っては、エネルギー安全保障、安定的な価格でのエネルギー確保、低炭素化への貢献の点で重要な役割を果たしていくということにつき、日本はもとより、アジア太平洋地域や欧米を含む国際的な理解が進んでいると認識している。

また、e-メタンについても、カーボンニュートラル化に向けた技術進展や普及支援をサポートしていくことが政府間の首脳級、閣僚級の会合や、産官のトップによる国際会合の場でも確認されている。

10月16日、日本ガス協会とオーストラリア ガス産業信託は、カーボンニュートラル化に向けた協力、および LNG の安定供給に資する支援に関する覚書 (MOU) を締結した。

両者は、e-メタン輸入時の CO<sub>2</sub> カウンترلールの日豪事業者間協議の進展や、GHG プロトコル、IPCC 等の国際 CO<sub>2</sub> カウンترلール改定への働きかけ、円滑な LNG 取引の継続に資する活動に取り組んでいく。

改めて申し上げるが、都市ガス業界は、天然ガスの高度利用、将来的な e-メタンの社会実装等によりカーボンニュートラルの実現に貢献していく。政府におかれては、天然ガスをエネルギーの安定供給と、シームレスな e-メタンへの移行によるカーボンニュートラル実現のための最有力な手段として位置付けていただくことを期待する。

### 4. 大阪・関西万博におけるガスパビリオンの準備状況

大阪・関西万博の開幕が半年後に迫る中、「ガスパビリオン・おばけワンダーランド」の準備は順調に進んでいる。建築工事は、今後、内装工事を進め、12月末に工事完了となる予定。

また、機運醸成策の一環として、ガスパビリオンに登場するおばけキャラクター7体のネーミングを一般投票により決定する、「おばけ総選挙」を開催している。

次世代を担う子どもたちをはじめ、あらゆるご来場者の方々に楽しんでいただけるエンターテインメント型パビリオンを目指していく。

以上